



平成27年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社レッド・プラネット・ジャパン
コード番号 3350 URL <http://www.redplanetjapan.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小野間 史敏

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室 (氏名) 中村 朋宏

TEL 050-5835-0966

四半期報告書提出予定日 平成27年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年9月期第3四半期の連結業績(平成26年10月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年9月期第3四半期	3,173	133.5	△342	—	△364	—	△384	—
26年9月期第3四半期	1,359	—	△274	—	△304	—	△305	—

(注) 包括利益 27年9月期第3四半期 △370百万円 (—%) 26年9月期第3四半期 △305百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年9月期第3四半期	△2.41	—
26年9月期第3四半期	△3.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年9月期第3四半期	8,864	4,982	53.5
26年9月期	7,722	3,950	47.5

(参考) 自己資本 27年9月期第3四半期 4,738百万円 26年9月期 3,671百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年9月期	—	0.00	—	—	—
27年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年9月期の連結業績予想(平成26年10月1日～平成27年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,800	217.9	550	—	130	—	20	—	0.14

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社レッド・ブラネット・フーズ 、 除外 1社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年9月期3Q	181,254,937 株	26年9月期	142,695,837 株
② 期末自己株式数	27年9月期3Q	50,100 株	26年9月期	50,100 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年9月期3Q	159,866,770 株	26年9月期3Q	90,549,863 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日本銀行の金融緩和策を背景に、緩やかな景気の回復基調が続いております。個人消費は、消費税増税に伴う駆け込み需要の反動もあり、消費マインドに弱さが見られながらも、底堅い動きとなっております。また、企業収益は大企業を中心に改善の動きが見られますが、ギリシャ情勢などの海外景気の下振れリスクなどが懸念材料となっております。

このような状況下、当社グループは、前連結会計年度より、既存事業でありますディストリビューション事業及びホテル事業に加え、新たな事業として飲食事業を開始し、事業領域の拡大と安定的な収益基盤の拡充を図ってまいりました。

ディストリビューション事業につきましては、当第3四半期連結累計期間において、新しい音楽フォーマットサービスを提供するエムカードの営業、アイドルやビジュアル系アーティスト等を中心とした新譜発売に向けた営業活動などに積極的に取り組んでおります。

ホテル事業につきましては、稼働しているレッドプラネット 那覇 沖縄及びホテルロイヤルオーク五反田が順調に推移しているほか、第1四半期連結会計期間において、東京都目黒区の既存ホテルの一部を取得、また、平成27年8月にレッドプラネット 浅草 東京がオープンするなど、ホテル事業の強化を図っております。

また、前連結会計年度から当社グループの事業領域のさらなる拡大の一環として取り組んでいる飲食事業につきましては、第2四半期連結会計期間において、レッド・プラネット・フーズを会社分割（簡易新設分割）し、飲食事業の経営効率のさらなる向上を図り、また、当第3四半期連結累計期間において、韓国のフライドチキンブランド「Kyochon」の導入を進めるなど事業活動の強化を図っております。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高3,173百万円（前年同四半期133.5%増）となり、営業損失342百万円（前年同四半期は営業損失274百万円）、経常損失364百万円（前年同四半期は経常損失304百万円）、四半期純損失384百万円（前年同四半期は純損失305百万円）となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

(ディストリビューション事業)

当社連結子会社であるダイキサウンド株式会社が支援するアーティストの音楽CD・DVDは、支援するアーティストのボディーズメルフレグランスが話題になったり、アルバムがオリコン週間ランキング1位を取得するなど好調に推移した結果、セグメント売上高は1,364百万円（前年同四半期11.9%増）となりました。

利益面につきましては、セグメント損失67百万円（前年同四半期はセグメント損失101百万円）となりました。

(ホテル事業)

ホテル事業につきましては、平成25年8月に取得したレッドプラネット 那覇 沖縄及び平成26年9月に取得したホテルロイヤルオーク五反田の当第3四半期の稼働率がそれぞれ約90%、約96%と好調であったこと、また、平成26年10月から一部を取得した東京都目黒区の既存ホテルが売上に若干寄与したこともあり、セグメント売上高は495百万円（前年同四半期254.8%増）となりました。

利益面につきましては、セグメント損失64百万円（前年同四半期はセグメント損失170百万円）となっております。

(飲食事業)

飲食事業につきましては、平成26年5月から12月にかけて飲食事業を展開する事業会社の株式を取得し、株式会社キューズダイニング等が連結子会社となっております。

札幌を中心に展開している飲食店等が好調であること、また、スイーツ事業が順調に推移していることから、セグメント売上高は1,313百万円となっております。

利益面につきましては、セグメント損失211百万円となっております。

なお、飲食事業は前連結会計年度末における新規子会社取得に伴い開始したため、前年同四半期の情報は記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

資産・負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比較し1,141百万円増加の8,864万円となりました。これは、主に東京都目黒区の既存ホテルの一部を購入したことにより増加したものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比較し109百万円増加し、3,881百万円となりました、これは主にCD等の仕入が増えたことによる買掛金の増加によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比較し1,031百万円増加の4,982百万円となりました。これは主に新株予約権の権利行使により株主資本が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年9月期の連結業績予想につきましては、平成26年11月19日に公表いたしました業績予想から変更しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結累計期間において、会社分割(簡易新設分割)により、飲食事業を営む子会社株式保有及び当該子会社の戦略立案・推進と経営監督に関する事業を分割し、新設分割設立会社である株式会社レッド・プラネット・フーズに承継いたしました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、過去2期連続して重要な営業損失及び重要な営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、当3四半期連結累計期間においても、重要な営業損失、経常損失、四半期純損失及び重要な営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しております。これらにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該重要事象等を解消し、または改善するため、以下記載のとおり取組んでまいります。

- ①ディストリビューション事業は、一部のアーティストの売上は好調なもの、アルバム等の発売時期により売上高が左右されることもあり、安定的な売上高を確保するまでには至っておりません。そのため現在、安定的な売上高を確保する取り組みとして、ニッチ市場の開拓を積極的に推進するとともに、支出を抑制するため更なるコスト削減を図り、収益改善に努めております。
- ②ホテル事業は、現在、既にオープンしておりますホテルロイヤルオーク五反田、レッドプラネット 那覇 沖縄に加え、当第3四半期連結累計期間において一部取得した東京都目黒区の既存ホテルが、売上高及び収益に貢献しております。また、平成27年8月にオープンしたレッドプラネット 浅草 東京は、第4四半期以降に売上高及び収益に貢献する予定であります。さらに名古屋市中区錦の取得済ホテル用地の開発など、引き続きホテル事業の更なる強化を図ってまいります。
- ③飲食事業は、前連結会計年度において、北海道札幌市を中心に飲食店等を展開する事業会社を連結子会社とし、当第3四半期連結累計期間において株式を追加取得しました。また、平成27年2月に飲食事業を営む子会社株式保有及び当該子会社の戦略立案・推進と経営監督に関する事業を新設分割することにより、スピーディーな経営判断が可能となる体制を整備いたしました。
前連結会計年度にも増して当社グループのホテル事業とのシナジー効果を発揮し、飲食事業の収益力強化を図ってまいります。また、取得した事業会社の子会社が運営するスイーツ事業が好調に推移していることもあり、当社グループとの幅広い共有やコラボ企画等の提案により、グループ内における相乗効果を図ってまいります。
- ④当社グループは、前連結会計年度において、2回目となるライツ・オファリング及び第三者割当による新株式及び第4回新株予約権の発行による資金調達を行いました。また、当第3四半期連結累計期間においても、新株予約権が権利行使されるなど、財務基盤が強化されました。これら調達資金を、ホテル事業を中心とした新たな事業に投資することで、安定的な収益確保に向けた取り組みを図っております。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,672,971	1,827,327
売掛金	240,910	449,687
有価証券	-	80,000
商品及び製品	19,518	31,622
原材料及び貯蔵品	3,044	10,790
短期貸付金	-	450,000
その他	132,233	153,932
貸倒引当金	△6,947	△10,595
流動資産合計	3,061,731	2,992,766
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,668,219	2,123,467
その他(純額)	2,166,182	2,590,736
有形固定資産合計	3,834,401	4,714,204
無形固定資産		
のれん	431,179	442,452
その他	8,811	11,391
無形固定資産合計	439,990	453,844
投資その他の資産		
その他	608,037	926,276
貸倒引当金	△221,835	△222,989
投資その他の資産合計	386,201	703,287
固定資産合計	4,660,594	5,871,335
資産合計	7,722,326	8,864,101

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	336,957	541,736
短期借入金	500,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	136,156	678,480
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
未払法人税等	15,253	6,125
返品調整引当金	7,310	12,432
その他	232,203	266,011
流動負債合計	1,247,881	2,024,785
固定負債		
社債	160,000	140,000
長期借入金	2,137,770	1,491,660
退職給付に係る負債	18,507	20,404
資産除去債務	41,686	44,106
その他	166,164	160,877
固定負債合計	2,524,128	1,857,049
負債合計	3,772,010	3,881,835
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,102,933	2,820,962
資本剰余金	2,331,886	3,049,914
利益剰余金	△626,000	△1,010,920
自己株式	△138,041	△138,041
株主資本合計	3,670,776	4,721,914
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,097	16,906
その他の包括利益累計額合計	1,097	16,906
新株予約権	24,815	20,615
少数株主持分	253,625	222,828
純資産合計	3,950,315	4,982,266
負債純資産合計	7,722,326	8,864,101

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)
売上高	1,359,270	3,173,485
売上原価	1,026,217	1,573,976
売上総利益	333,053	1,599,508
返品調整引当金繰入額	684	5,122
差引売上総利益	332,368	1,594,386
販売費及び一般管理費	606,508	1,936,964
営業損失(△)	△274,139	△342,577
営業外収益		
受取利息	917	25,307
その他	2,745	8,651
営業外収益合計	3,663	33,958
営業外費用		
支払利息	8,894	42,173
その他	25,443	13,955
営業外費用合計	34,337	56,129
経常損失(△)	△304,814	△364,748
特別利益		
負ののれん発生益	750	-
特別利益合計	750	-
特別損失		
固定資産除却損	-	9,142
和解金	-	14,000
特別損失合計	-	23,142
税金等調整前四半期純損失(△)	△304,063	△387,891
法人税、住民税及び事業税	1,302	3,321
法人税等調整額	-	10,567
法人税等合計	1,302	13,888
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△305,366	△401,779
少数株主損失(△)	-	△16,860
四半期純損失(△)	△305,366	△384,919

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△305,366	△401,779
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	-	31,326
その他の包括利益合計	-	31,326
四半期包括利益	△305,366	△370,453
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△305,366	△369,084
少数株主に係る四半期包括利益	-	△1,368

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成25年10月9日開催の取締役会に基づき発行した第2回ライツ・オファリング(新株予約権)の権利行使により、前連結会計年度末に比べ、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,005,477千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金1,444,339千円、資本剰余金1,673,292千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年10月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成26年7月14日開催の取締役会に基づき発行した第4回新株予約権の権利行使により、前連結会計年度末に比べ、資本金及び資本準備金がそれぞれ718,028千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が2,820,962千円、資本剰余金が3,049,914千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ディストリ ビューション 事業	ホテル事業	飲食事業			
売上高						
外部顧客への売上高	1,219,492	139,778	—	1,359,270	—	1,359,270
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,219,492	139,778	—	1,359,270	—	1,359,270
セグメント損失(△)	△101,483	△170,917	—	△272,400	△1,739	△274,139

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント損失(△)の調整額△1,739千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「ホテル事業」のセグメントにおいて、チューン那覇匿名組合の持分の追加取得により、のれんが増加しております。当該のれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において20,417千円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ディストリ ビューション 事業	ホテル事業	飲食事業			
売上高						
外部顧客への売上高	1,364,411	495,918	1,313,155	3,173,485	—	3,173,485
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,364,411	459,918	1,313,155	3,173,485	—	3,173,485
セグメント損失(△)	△67,198	△64,159	△211,220	△342,577	—	△342,577

(注) セグメント損失(△)の合計額は、四半期連結財務諸表の計上額の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

飲食事業セグメントにおいて、株式会社キューズダイニングの株式の追加取得により、のれんが増加しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において81,913千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度末より、飲食事業の子会社取得に伴い、報告セグメントを「ディストリビューション事業」、「ホテル事業」及び「飲食事業」の3区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。